

任卿の説也、喜撰式にも、邂逅たまゆらと云と見え、八雲御抄には、まばしの義ともみえたり、

〔八雲御抄四〕世俗言、たまゆらまばし也、公任説、わく

〔萬葉集十一〕古今相聞往來歌類、正述心緒

玉響ユヅリ昨キナフ夕見物フシモノ今朝アサ可戀物コイモノ

〔萬葉集抄七〕わくらははにとは たまさかにと云也

〔古今和歌集十八〕田むらの御時に、事にあたりて、津の國のすまといふところにもり侍けるに、

宮のうち侍ける人につかはしける、 在原行平朝臣

わくらははにとふ人あらばすまの浦にもしほたれつ、わぶとこたへよ

〔伊呂波字類抄比〕久ヒ長ホ久サ也シ

〔倭訓栞前編二十五〕ひさし 久をよめり、ひさにとも、ひさ、とも見ゆ、神代直指抄に日去の義と

いへり、靈異記に淹をよめり、出羽にては、ひやしといふ、華嚴經維摩經に久如と見ゆ、こは幾時と

いふに同じ、關西、關東に口語にいふは、やつといひ、又ゑつといふ、出羽によつぱるといふ、世

遙ハルカの意なるべし、

〔古今和歌集十〕七題まらず よみ人まらず

我みてもひさしく成ぬ住の江の岸のひめ松いくよへぬらん

〔日本釋名上〕時節、何時、いづれの時を略せり、萬葉に何時をいつとよめり、

〔雅言集覽二〕いつ、俗に同、イツ、何時のイツ也、

〔萬葉集十一〕古今相聞往來歌類、正述心緒

夕卜ユフ爾毛ニモ占爾毛ウラニモ告有ツケル今夜谷コノヨ不來君キミ乎ナラニ何時イツト將待マタム

〔倭訓栞中編〕二、いつも 毎をよめり、何時もの義也、